

北海道駒ヶ岳の火山活動解説資料（平成26年3月）

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
平成19年12月1日に噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）を発表しました。その後、予報事項に変更はありません。

活動概況

- ・噴気などの表面現象の状況（図1 - ~、図2）
遠望カメラによる観測では、昭和4年火口の噴気は観測されませんでした。
- ・地震及び微動の発生状況（図1 - ~、図3）
火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。
火山性微動は観測されませんでした。
- ・地殻変動の状況（図4 ~ 5）
衛星を用いた測位観測（GNSS連続観測¹⁾）では、火山活動によると考えられる地殻変動は認められませんでした。

1) 気象庁では、衛星測位システムを用いた位置測定をこれまで「GPS観測」と表記してきましたが、今後は「GNSS観測」と表記します。GNSS（Global Navigation Satellite Systems）とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。

資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、北海道及び森町のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平23情使、第467号）。

次回の火山活動解説資料（平成26年4月分）は平成26年5月12日に発表する予定です。

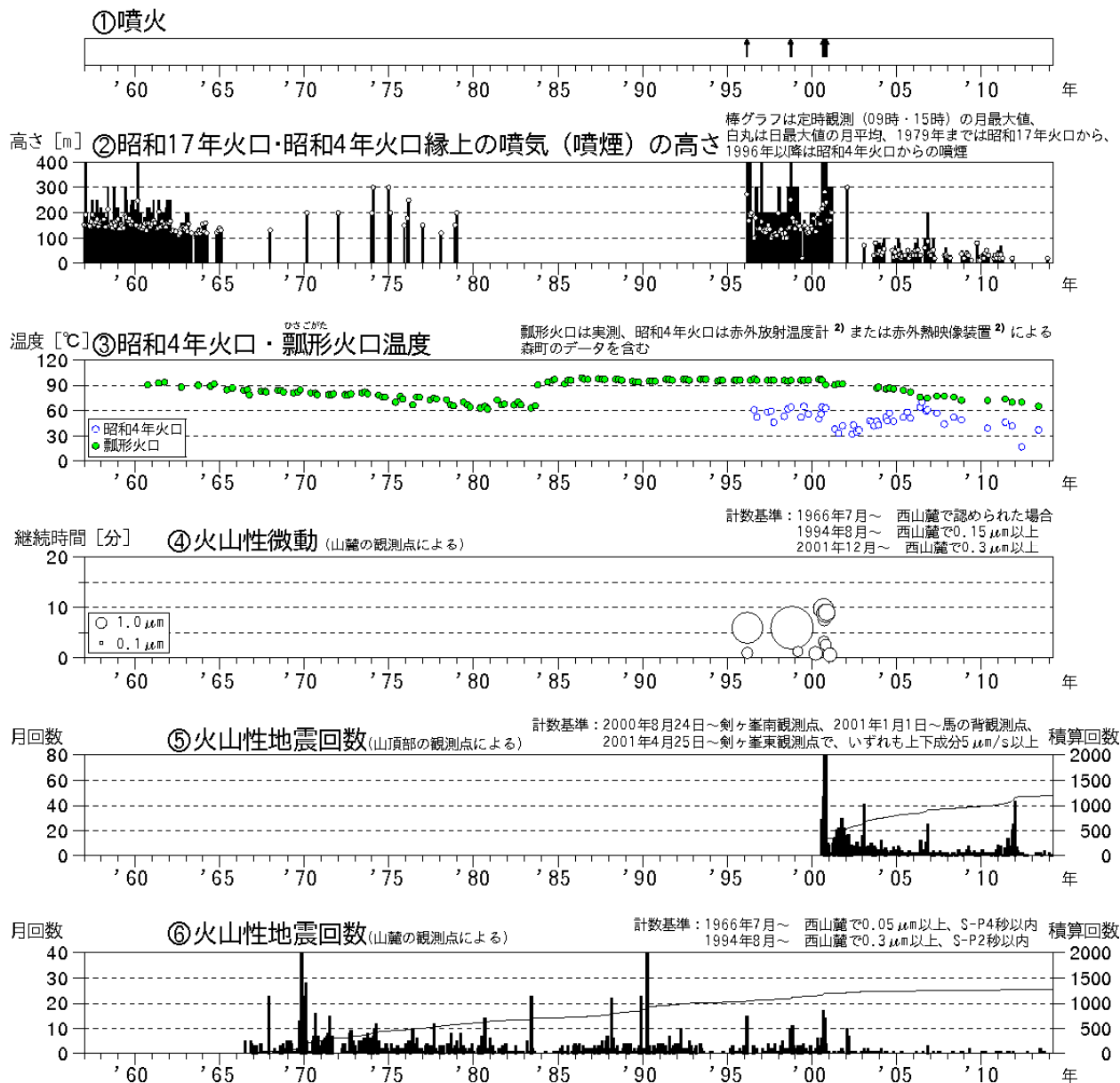


図1 北海道駒ヶ岳 火山活動経過図（1957年1月～2014年3月）

2) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度や温度分布を測定する計器で、熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で熱源の温度よりも低く測定される場合があります。



図2 北海道駒ヶ岳 東南東側から見た山頂部の状況
（3月17日、鹿部公園南東遠望カメラによる）

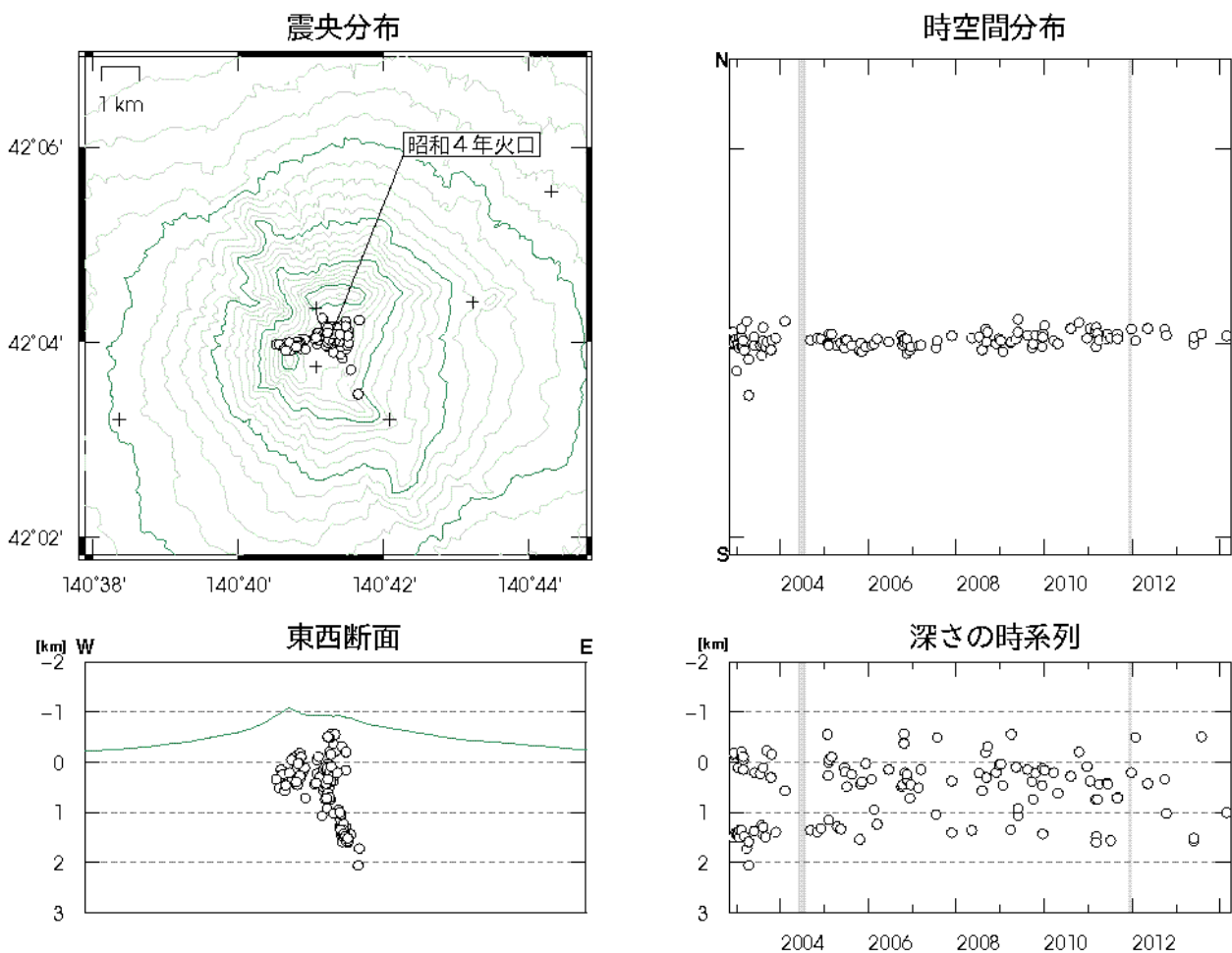


図3 北海道駒ヶ岳 火山性地震の震源分布（2002年12月～2014年3月）
 灰色の期間は一部観測点欠測のため震源の決定数減少や精度低下が見られます
 印：2002年12月～2014年2月の震源
 +印：地震観測点
 ・今期間、震源が決定された地震はありませんでした

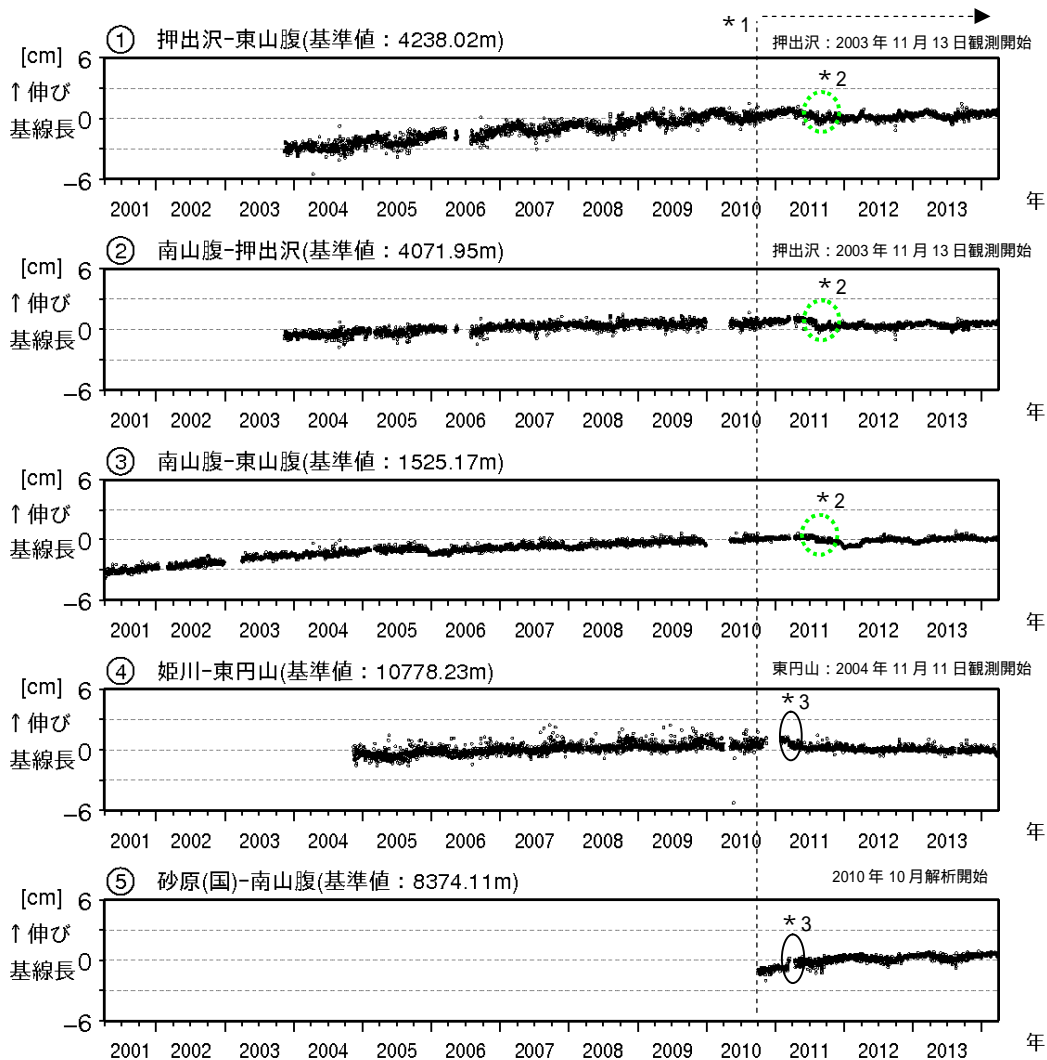


図4 北海道駒ヶ岳 GNSS連続観測¹⁾による基線長変化(2001年4月~2014年3月)

- ・GNSS基線 ~ は図5の ~ に対応しています
- ・GNSS基線の空白部分は欠測を示します
- * 1 : 2010年10月以降のデータについては、解析方法を改良して精度を向上させています
- * 2 : 緑点線円内の変動は、機器更新によるものです
- * 3 : 楕円内の変動は、2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の影響によるものであり、火山活動によるものではありません

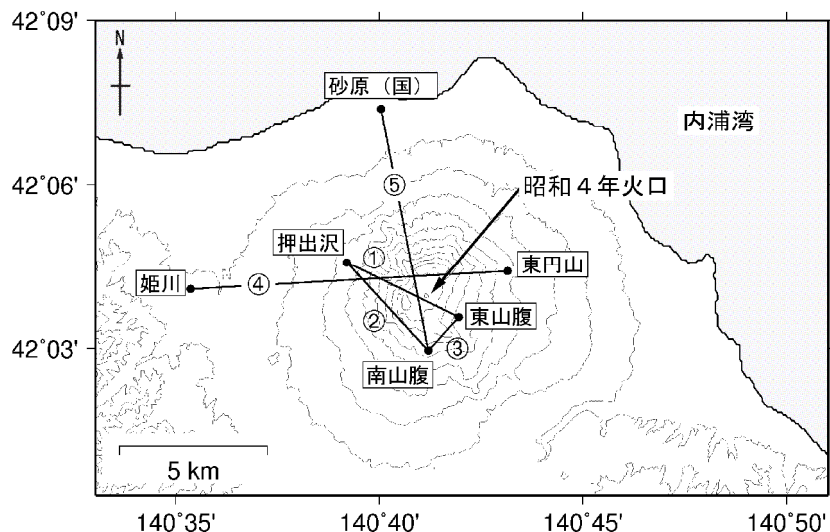


図5 北海道駒ヶ岳 GNSS連続観測点配置図¹⁾
(国): 国土地理院

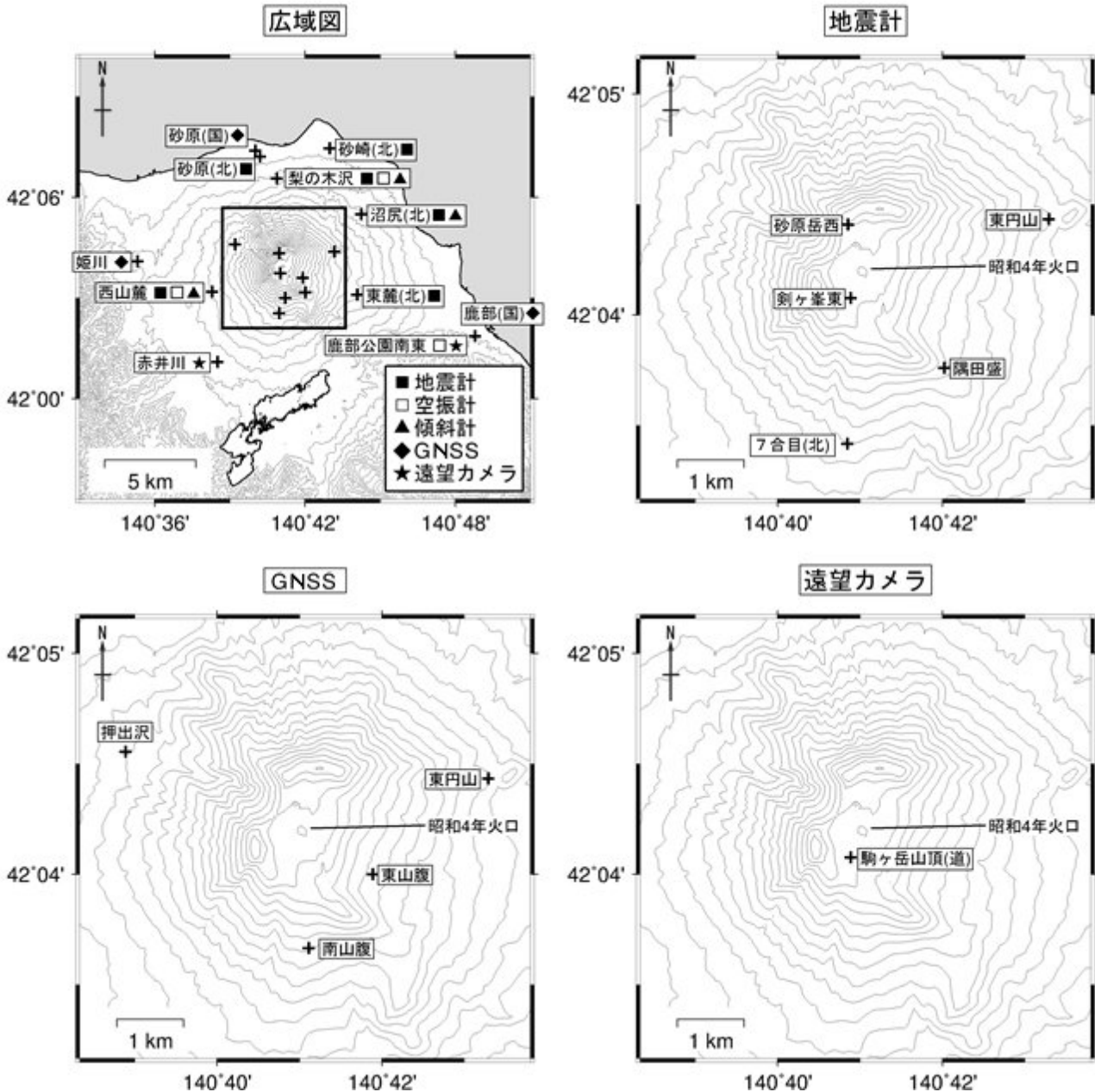


図6 北海道駒ヶ岳 観測点配置図
 広域図内の は地震計、GNSS、遠望カメラそれぞれの範囲を示します
 +印は観測点の位置を示します
 気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています
 (国): 国土地理院
 (北): 北海道大学
 (道): 北海道